

分科会 クリケット班

報告者 菅原 達

1 分科会 クリケット班の報告

項目	報告内容
生徒からの報告内容	<p>「クリケット×多文化共生について」</p> <p>クリケットに対する市民、特に中高生の関心が低い中、クリケットを使った交流の機会を提供すれば、市民の関心を高めるだけでなく、外国人も地域との繋がりが深まり、多文化共生に繋がることが分かり、市民と外国人との橋渡し役を中高生が担うことができる。今後は市内の中学、高校で交流会・体験会を実施していく。</p>
意見交換の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SNS を活用し中高生へ広め、また、親に伝わる宣伝</li> <li>・ 街中でクリケットの広告やイベント機会の提供</li> <li>・ クリケット場に行く動機付けとアクセスの整備</li> <li>・ 学校設備も活用した佐野市国際クリケット場（通称 SICG）のクリケット以外の利用</li> <li>・ 市民の中に秘めたアイデアを引き出す機会やシステムを構築し、皆で考えていく事が地域活性化になる</li> <li>・ 交通網の整備や、イベントに団体やショップ、出店を参加させることが、経済の活性化に繋がる</li> </ul>
感想、所見、課題等	<p>「クリケットと多文化共生」をテーマにした研究は、調査に基づく仮説を立て、それを自ら検証し、体験も交えて具体的な要望に繋げるもので、極めて論理的で、且つ、現実に即した取り組みであると感じた。</p> <p>特に、誰かにその解決を委ねるのではなく、自分たちがその中核的な役割を果すとの主体性に、地域に対する熱く真剣な思いと、未来への責任感を感じ、これは、私たち大人たちも学ぶべき点であると言える。</p>

2 参加議員 本郷淳一、小暮博志、菅原達